龍声

東龍寺報
平成元年三月廿五日創刊
発行編集所 〒959-1502
新潟県南蒲原郡田上町
曹洞宗　東龍寺
電話 (0256) 57-3395
FAX (0256) 57-2174
ホームページ
http://www.ginzado.ne.jp/~ryusei/
E-mail
ryusei@ginzado.ne.jp

法悦の中で

東龍寺住職　渡辺宣昭

大本山永平寺貫首・福山諦法大禅師猊下をお迎えして、開山四百五十回忌・先住忌並びに県曹青（新潟県曹洞宗青年会）主催授戒会が、東龍寺で厳修されてから、早いもので一年が経とうとしております。

小生は、会場主とともに、説戒師という大役をお勤めさせて頂きましたが、当初大きな不安がありました。それは、「戒弟の半数近くは、東龍寺檀家か何らかの関わりのある方、そのような知己の方々にお話をすることが果たして出来るか、ましてや私を生み育ててくれた母や伯母・叔母たちも戒弟にいる、つまり、自分の行状を全て知っている人の前で果たして、法を説けるだろうか」という思いでした。十六条の戒法を学び、高名な説戒師様の法話を拝読したり、録音テープを聞いたり、原稿を作ろうと努力しますが、初日の開山・先住忌の準備や戒弟の整理等に追われてなかなか思うように進みません。とうとう最後は開き直り、自分の身の丈以上の話は出来ない、素直に自分の体験や経験の中から、戒法に照らした話をしていこうと覚悟を決めて臨みました。

ところがいざ始まってみると、南無三世諸仏の戒弟一同の唱和と大太鼓の轟く中の上殿、自分自身が仏様から後押しをされたように高座に上り、坐を組むと不思議な威神力が授かるのです。それは今までの布教教場のどこよりも深い聴衆との一体感でした。身近な話材が聴衆にすんなり受け入れられ、話す側と聞く側の壁が取り払われたような、私が法話をしているにもかかわらず、聴衆が私に語りかけてくれているような不思議な感覚になりました。説くものと聞くものが一つになった世界が現れたのです。

そして、この説教の道場こそが、御戒法の世界そのものだと、思えてきました。お互いが仏様なのですから、自分と他人という区別のない仏国土が現成していたのです。

六月三日、完戒（がんかい）道場という最後の法要で、戒師大禅師様が、小生の前にも挨拶に来てくださいました。丁寧な合掌礼拝を下さり、顔を会わせた時、「ありがとう」とその口元が動いたように私には見えました。「説戒の内容としては不十分極まりないものでも、無我夢中で、痩せる思いで（実際三ヶ月で四キロ痩せたのですが）、何とか、七回の法座を勤め終えたことを認めてくださったのかなあ。」と何ともいえない法悦に浸ることが出来ました。

県曹青から戴いた難値難遇のご縁に一致団結してご理解とご協力をくださった檀信徒に深く感謝申し上げ、この授戒会を通じて結んでいただいた仏縁が皆様により広がり深まって行くことを願っております。

合掌

説戒中の住職

眼蔵会案内

第十回眼蔵会を六月二日(木)～四日(土)に行います。駒澤大学教授・角田泰隆先生より、正法眼蔵・「生死」「道心」の巻をご提唱いただきます。是非、ご参加ご修行ください。

開山先住忌、授戒会に参加された東龍寺檀信徒の声

「授戒会」に参加して

三条市　渡邊喜彦

我々夫婦は毎月朔日（一日）を基本として、息子夫婦は十五日を基本に墓参を続けている。お陰様で、墓参をさせて頂くと心がなごみ、ご先祖の方々が喜んでくれる思いがする。

さて、そんな我々が、方丈様とお母様に勧められ、授戒会とは、一体どういうものか、全く解らず、今回参加する事となったが、参加して、驚き感謝している。大本山永平寺様より貫首・福山諦法禅師様をお迎えしての、めったにない一大事業であった事。一日目、二日目と行を重ねて行くうちに、次第に馴染んで来て、お寺やお坊様、そして宗教の少しは理解出来たのかな、という思いである。それに三度三度の食事に感謝の心が湧き、与えられた食事も御代わりを一度もせず、頂いた。心より感謝と味の美味しさを改めて痛感した。以来私は、家に帰っても小食となり、我が儘が無くなった。

特に心に強い感動を覚えたのは特別祈祷の時である。大勢のお坊様方の読経を聞きながら、我々夫婦は一心に慰霊顕彰を祈っていた。何か心の中から涙が溢れ出てくるのである。それは亡くなられた先祖の方々や、父や子供が喜んでくれている、という実感である。すぐ私たちの傍に来てすごく嬉しがってくれている、そういう実感を覚えた。これは、後で妻と話したら、二人で実感していた事が分かった。

四日目の晩、最高の道場（正授道場）は、長い回廊をひたすら前の人につづき歩いた。長かった。きっとこれは、この世とあの世の長い街道なのだったのでは。そして有難い戒名を頂き、何とかお陰さまで無事、授戒会を終了できた。

まとめに大変なご苦労をされた曹洞宗の青年部の皆さま、そして会場提供された東龍寺の方丈様、関係の方々に深謝し、これを契機に今後自らの生き方を改めて考え、世の為に生かして頂く決意です。この度は、本当にありがとうございました。

因脈会（いんみゃくえ）に参加して

滋賀県大津市　田巻澄子

南無帰依仏、南無帰依法、南無帰依僧、

南無三世諸仏、南無三世諸仏、…新潟空港へ向かう車の中で、私は頭の中に鳴り響いている大勢の人々との唱和の余韻に浸っていた。先程まで、私は東龍寺の本堂で僧侶の方々の読経の中、一心に南無三世諸仏と唱えていた。それは不思議な空間だった。大勢の僧侶の方々の厳かな読経と戒弟の唱和する声が響いて、日常の喧噪とは、かけ離れた世界だった。私には初めての体験だが、合掌をして一心にお唱えし唱和するこの厳かな空気はとても心地よく、時間の経つのも忘れてしまうほどだった。

平成二十一年の秋に、東龍寺様が布教で滋賀県に来られた時に、私は初めて授戒会という言葉を耳にした。東龍寺様から難値難遇の法要と聞いて参加してみたいと思った。新潟県曹洞宗青年会三十周年記念事業として、平成二十二年五月三十日から六月三日までの五日間、東龍寺で開催されることになった。

五月三十日はお天気にも恵まれ、永平寺貫首・福山諦法不老閣猊下が東龍寺山門までお駕籠で来られた。本堂は檀信徒の人々で埋めつくされていた。初めてお会いする福山禅師様への期待とお迎えする緊張感が伝わって来た。本堂へお入りになった禅師様は、柔和なお顔なのに凛とした空気が感じられた。開山忌先住忌の法要の後、私達戒弟は、合掌、礼拝な

どお勤めの作法を学び、因脈授与になった。戒師の福山禅師様から、一人一人、直接お血脈を頂くのである。こんな機会はめったにないからと言われていたが、直接頂く緊張もあり、作法を間違わないようにすることで精一杯だった。その後、説戒師である東龍寺様の説戒があった。私達戒弟は十の戒法について学ぶのである。説戒はそれまでと違って東龍寺様を囲み、和やかな雰囲気で始められた。身近なことを例えられて、わかりやすく親しみやすいお話だった。

翌日もさわやかな青空で、私達は、先祖の供養をしていただいた。法要の準備をする若い僧侶の方々のきびきびした動きは、見習うべきことが多く気持ちのよいものだった。お焼香の作法などを教わり、戒師様や僧侶の方々、戒弟の人々に供養していただいた。私は心残りではあったが、また、ご縁があることを祈って東龍寺を後にした。

私達夫婦は、今年二人とも還暦を迎えた。東龍寺様とのご縁で、二人で因脈会に参加出来たことに感謝するとともに、還暦の年に、授戒会のご縁があったことを感謝したい。

県曹青主催援戒会に参加して

新潟県西蒲区巻　坂田貞子

大本山永平寺貫主福山諦法禅師様を始め青年会僧侶様と四泊五日道心のある青年に囲まれて毎日毎日が身の引き締まる思いで過ごす事が出来ました事を深く感謝申し上げます。次に私が体験した貴重な五日間にて心に残ることを少し申し上げて参りたいと思います。

【第一日目】　説戒につきまして申します。方丈様の説戒は大変分かりやすく又、必ずお母様（私の姉）の事が話題と成り本当に其の時のことが鮮明に浮かびました。親子の厚い思いが伺えました。

【第二日目】　ホテル小柳に泊まり、二日目の朝四時に起きて部屋の人達と身支度を済ませると、ホテルから歩いて寺に行きました。

五時四十五分から暁天坐禅、朝課、戒源師調経、二師朝参の拝、七時ようやく小食を頂きました。三食、心をこめて作って下さって感謝申し上げます。御苦労さまでございました。

【第三日目】　夜七時から懺悔道場、過去に犯した罪を「小罪無量」と告白して、其の罪の許しを請い悔い改める儀式をしました。今でもその時の事を思うと身が引き締まる思いです。貫首様に一礼致しました。そっとお顔を拝見すると優しいお顔で迎えて下さいました。今までの緊張がすーと解けました。

【第四日目】　夜七時三十分から正授道場。戒師様より十六の戒の（教授戒文）と其の証として血脈を授かる儀式を須弥壇の上に十四・五名ずつ登り、戒師様に二礼して下がりました。一四三名程参加した全員が儀式を終えた後、血脈戒名を頂くことが出来ました。この瞬間私は仏様の弟子になったと確信致しました。

今後も仏弟子として日々過ごして参りたいと思います。

【第五日目】　五日目の朝いつもの四時に起きて、五時過ぎにホテルを後にしました。

私の胸の中に今日でお勤めは終わりなんだと思い、一日目から今日までの事が走馬灯のように思い浮かびました。

一四三人、何事もなく心を一つにして青年僧侶の指示に従い一生懸命手を合わせて仏道を勉強致しました。。

最後に授戒会の円成を祝って山内の鳴らしものを一斉に鳴らして戒師様をお見送り致しました。

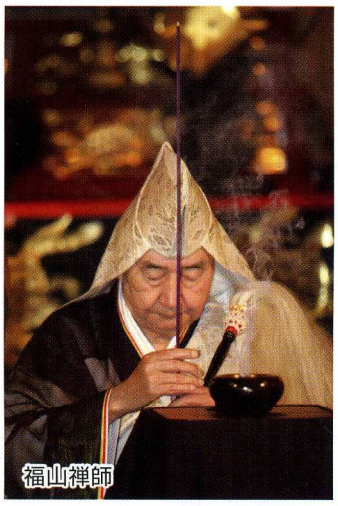
ただただ各関係者に深く感謝申し上げますとともに、貴重な体験を有難うございました

戒師寮にて
後列左　随行長・佐藤孝一老師、説戒師（戒場主）・渡辺宣昭
前列左より　引請師・五十嵐紀典老師、戒師・不老閣猊下、教授師・石附周行老師

大本山永平寺不老閣猊下御親修

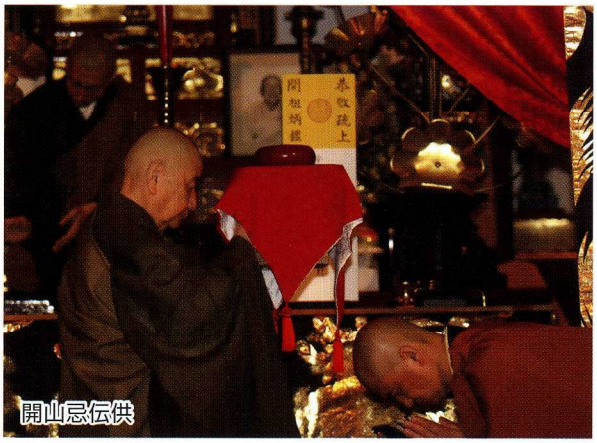
開山四百五十回忌並先住忌
大授戒會

新潟県曹洞宗青年会
三十周年記念
平成二十二年五月三十日啓建
六月三日完戒
安國山　東龍寺



福山禅師

禅師様御到着



開山忌伝供

駕籠にて禅師様上山

禅師様へ御礼

懺悔道場の説明を受ける戒弟の皆さん

禅師様お見送り

禅師様お見送り

◀２ページ上段筆者・渡邊喜彦氏（写真手前より2番目）

氏は、篤信の檀家で、本尊様へ毎月３回の献花、毎年の観音像・水子地蔵尊像の清掃、本年度は音響設備の御寄付くださいました。
　授戒会には、ご夫婦で参加されました。

合わせて２千食以上を作ってくれた典座寮の皆さん

◀２ページ下段筆者・ 田巻澄子氏(写真中央、右はご主人)

氏は、東龍寺大檀頭・田巻七郎兵衛家の新宅家で、現在は滋賀県にお住まいですが、ご夫婦で、開山忌・因脈会にご参加されました。遠くから東龍寺の護持、ご両親・ご先祖の御供養をいつも熱心に心掛けてくださいます。写真は、戒弟への食供養で、焼香されているところです。

◀３ページ筆者・坂田貞子氏(写真右から三番目)

氏は、住職母方の叔母で、母を含め姉妹４人で授戒につかれました。亡きご主人への御供養を熱心に勤め、家族思いの優しい方です。

亡き母を偲んで

東京都町田市　辻本佳代子

私の母（故村越フミ）が、八十二歳でここ東京の町田で亡くなってから、はや半年になろうとしています。遺品を片付けながら、その生涯に思いをはせ、改めて寂しさにとらわれるこの頃です。

母は幼い頃には新潟県小須戸町で育ち、五年前に父を看取ったのは新津でした。父の死後一人暮らしをしておりましたが、自分自身の最後をどのような形で迎えるのが良いのだろうかと、いつも気にかけておりました。住み慣れた新津への深い愛着と、その一方もし自分の身に何かあった時、ご近所の方に迷惑をかけては申し訳ないといった気持ちだったようです。そして、悩んだ末、長女である私の勧めに応じて東京に出てくる決心をしてくれました。三年半前、三十年以上住んだ家を片づけ、土地を処分して東京へ引っ越してきました。「自分の手で片づけられて本当に良かった。今だから出来たんだと思う。」とよく言っておりました。自分の人生の一区切りを自分で付けたという、さっぱりとした心持ちであったようです。

ここ東京の母の住まいは、私と同じ団地内でしかも百メートルも離れていません。多摩丘陵のはずれに位置する住宅地ですが、「どこの窓からも緑が見える。」と喜んでくれました。そして、新津での生活そのままに、自転車で近くのスーパーへ買い物に行き、近所の人びっくりされました。こちらでは交通量も多く母ぐらいの年齢になると、もう自転車に乗らないのが普通だからです。そのうち行きつけの美容院で、同年代で同じような境遇の方たちと知り合いになりました。やがてお茶を飲みに行き来し、一緒に出かけるようにもなりました。人付き合いの良い母に友達が出来て、私も本当に嬉しく思いました。娘の私は、おかずのやり取りはしても母の友達にはなれません。「愚痴もこぼせて、笑いあえるのはやっぱり友達が一番。」と楽しそうでした。

そんな母ですが、新津とのつながりをとても大切にしていました。付き合いの古い友達との電話による会話、食べ物から化粧品まで自分の好きなものは、すべて新津から取り寄せていました。東龍寺様も、何度かこちらにお見えになり亡父やご先祖様に御経をあげて下さいました。

母が脳梗塞で倒れたのは、梅の花が満開の二月の下旬でした。その前日には、母の家に四人ほど呼んで栗御飯を御馳走したそうです。次は苺狩りに行く予定だったとのことです。

倒れてから丸一日、意識が戻らぬまま母は救急で運ばれた市内の病院で息をひきとりました。母が願っていた通り、苦しむこともなく、また新潟から駆け付けた孫たちにも囲まれての最後でした。

葬儀には東龍寺様に、こちらまで来ていただきました。読経の後、母への温かいお言葉を頂戴しました。身にしみて有り難く思いました。

「自分でやれることは自分でするから」と「今、こうしていられるのはお父さんのおかげ」というのが母の口癖でした。わずか三年でしたが、晩年の姿を近くに見ることが出来たのは、私にとっても、私の家族にとっても幸せでした。

私にもいつか老いがやってきます。母の明るさ、前向きさを見習いたいものです。普段の様子から、もう少し長生きしてくれるものと思っていました。なぜもう少し優しい言葉を掛けてあげられなかったのかと、悔いが残るばかりです。

母は今、父と同じ東龍寺の永代供養墓に眠っております。嫁に出た二人の娘達に負担を掛けまいとの心づもりで生前から墓所も決めておりました。親はこちらが思う以上に子のことを思ってくれているものだと、しみじみと思います。

母へのせめてもの供養と思い、拙文をしたためました。このような機会を与えて下さった東龍寺様に心よりお礼を申し上げます。

〜 住職より一言 〜

この原稿は、昨年七月、文華秀麗大姉（故村越フミ氏）の新盆にお参りに行った折に戴きました。お母様の前向きの生き方に私も勇気づけられたものです。何度もお訪ねして、東京との距離がとても近く感じられます。

【東龍寺年中行持】

七月　金毘羅大祭
八月　一日　うらぼん会（盆参）
八月廿四日　水子地蔵尊並びに・観音様大祭
九月廿三日　秋のお彼岸会（お彼岸の中日）
十月　十日　常斎米法要
十二月三十一日　除夜祭（除夜の鐘）
一月　一日　大般若祈祷会
一月　二日　寺年始（近隣の檀家）
三月廿一日　寺年始（遠方の檀家）春のお彼岸会（お彼岸の中日）

【平成二十二年度事業、行持報告】

一、五月三十日に開山・般山祖吉大和尚の四百五十回忌、並びに先代の二七回忌、先々代の三三回忌法要を大本山永平寺不老閣猊下の御親修により、お勤めした。
一、五月三十日(日)～六月三日(木)に、新潟県曹洞宗青年会の主催による授戒会が東龍寺を戒場に大本山永平寺不老閣猊下を戒師に拝請し行われた。
一、七月五日（月）～六日（火）に「越後三十三ヶ所観音巡拝の旅（二回目、満願）」を行った。
一、七月二十日、第二十一回金毘羅大祭を修行した。
一、九月六日（月）～八日（水）に「庄内三十三ヵ所観音巡拝」を行った。
一、十月十一日（月）午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、「前大本山總持寺後堂・喝破道場主・香川県報四恩精舎住職野田大燈老師」をお招きし、第十五回秋の講演会を行った。

【参禅の報告】

一、四月二十三日「第三十回卯辰会の集い」(代表三条市・内山荘一）十七名。
一、七月三日、田上小学校六年生と保護者、八十名。
一、七月八日、「㈱くみあい企画さつきホール・会館」一行十三名。
一、七月十日、田上小学校四年生と保護者、六十名。
一、八月十七日、田上町社会社協議会「ボランティアチャレンジスクール」十五名坐禅体験。
一、九月十日、関東信越税理士会三条支部二四名。
一、癒し坐禅に秋田県・珠林寺参禅会一行十名。
一、十一月十七日、田上ライオンズクラブ坐禅例会。十名。

【平成二十三年度事業、行持案内】

一、六月二日(木)～四日(土)に、駒沢大学教授角田泰隆師を講師にお招きし、第十回眼蔵会を講本「生死」「道心」の巻で、開催する。
一、六月八日（水）～十日（金）に田上本山講主催の「大本山總持寺参拝と水戸・いわき・母畑温泉の旅」を行う。丁度、今年は總持寺が能登から横浜鶴見が丘に移転して百年の節目の年ですので、是非多くの参加をお待ちしております。
一、十月九日（日）午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、「自殺防止ネットワーク『風』理事長、千葉県長寿院住職・篠原鋭一老師」をお招きし、第十六回秋の講演会を予定している。

【月例加茂法話会】

一、毎月一回、夜、加茂市穀町商店街振興組合二階を貸り、僧侶八名（三名ずつ担当）による法話を聞く会を開催しています。お気軽にご参加下さい。

【月例坐禅会の御案内】

一、月例坐禅会を毎月第二土曜日夜七時半より行っています。
お気軽にご参加ください。

【心の癒し坐禅体験】

一、毎週水曜、木曜（祭日は除く）の午後四時から、約一時間、湯田上温泉宿泊者に坐禅修行体験をしていただいております。

【梅花講のお知らせ】

一、梅花講では、毎月七日と、二十二日の二回練習をおこなっています。
お始めになりたい方は、お気軽にご参加ください。

【その他の照光殿での催し】

一、大正琴のお稽古を先生をお招きし、有志で行っております。興味のある方、のぞいてみませんか。

【お寺よりの御礼とお願い】

一、三条・渡辺喜彦氏より、本堂並びに照光殿一階の音響設備工事費「金六十七万八千円」の御寄付を頂いた。
一、今年は、お盆の棚経回りを下記の日程で行いますので、ご理解とご協力の程、お願いします。

【お盆前住職】新潟・亀田・三条・巻・燕・白根・長岡
【十三日住職】中山・赤渋・笠巻・二ツ屋・三枚潟・市ノ瀬
【東岸寺若様】新津・覚路津
【お盆中住職】本田上・上野・加茂地区
【光明寺様】川之下・原ヶ崎・下吉田・鎌倉・新保・龍玄・嶋・庄瀬・石田新田・後藤・曽根・横場・羽生田・川船河
【少林寺様】山田・湯古屋
【少林寺若様】湯川・谷・中店・山崎

曹洞宗　心の電話

〇一二〇ー五〇八ー七四〇

こちらに電話をすると、全国の曹洞宗の方丈様達が一週間交代で、三分間の「ほとけの心」をわかりやすく説いた法話が流れます。二十四時間いつでも繋がりますので、是非、お聞きください。

東龍寺住職も平成十八年度より、年二回担当しております。

本年度は、
六月十四日～二十日、
十二月六日～十二日です。

ご縁に導かれて（秋の講演会をお聞きして）

加茂市　志田アキ子

私が東龍寺様を知ったのは、菩提寺の定光寺様で、東龍寺様を会場に行われる授戒会の案内を見た折でした。授戒会には家庭の事情で参加できませんでしたが、三条新聞にも授戒会の様子が掲載され、ある日、仕事を終えてから、思い切って訪ねてみました。

本堂から入ってお参りをしていると、住職のお母様が声をかけて下さいました。とても気さくな方でお寺の中を案内しながら授戒会の話を聞いているうちに、木彫りのお釈迦様を見た時、思わず鳥肌が立ちました。「禅」という映画を見た時、同じような場所があったのをふっと思い出したからでした。今までお寺に行くのは春秋のお彼岸とお盆と法事の時くらいでしたが、ひきこまれるように、それから、ほとんど毎日お参りに行くようになりました。

そして、仏の教えに関心をもつようになり、十月に東龍寺様で行われた野田大燈老師の講演を聞きに行きました。ひきこもりの子供たちが親元を離れて、又大人も朝から夜まで修行していると聞いてさらに驚き日本人の私でさえ出来ないのにと感心しました。老師の「いい息してる」という問いかけが、私が落ち込んでいた時でしたので、心に響きました。息が短いと短命で、息がゆっくりとした呼吸だと長生き出来る事、心が大切なんだなーと思いました。坐禅も大事で生き方を少し変えるだけでも安らかになれるとお聞きし、東龍寺様の坐禅会にも思い切って行く事にしました。心を静めるという事は大変ですが、一歩ずついい息ができる様に勤めたいと思います。野田大燈老師のお話をお聞きできたことに感謝いたします。

又、方丈様方や奥様、若奥様始め大勢の人達に心から感謝いたします。本当に有難うございました。

除夜祭お参りの志田アキ子さん

～ 住職より一言 ～

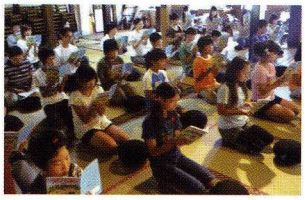
志田さんは、毎日、お仕事の帰りに東龍寺へお参りに来られ、とてもお顔が清々しくなっていかれました。今後ともご精進を！

小柳ひろ美さん
月例坐禅会
10年間皆勤の表彰

秋の講演会　野田大燈老師

才歩地蔵様脇で灯籠流し
湯田上温泉若女将会も協力

東京へ行かれた
故村越フミさん
（6ページ 筆者の母）


田上小学校親子坐禅会

編集後記

寺報二十三号を発刊するに当たり、渡邊喜彦氏、田巻澄子氏、坂田貞子氏、辻本佳代子氏、志田アキ子氏より、ご寄稿を賜り有難うございました。

今号は、開山忌・授戒会に参加しておられない檀信徒の皆さんにもその一端に触れていただきたいという思いから、その折の写真をカラーで多く載せてみました。

今後も皆様のご寄稿をお待ちしております。

住職　合掌